

6-2-2-2 市長挨拶

「炉端の会」創立 20 周年式典 —— 福田市長祝辞

平成 24 (2014) 年 9 月 28 日

皆さんこんにちは。

ご紹介いただきました川崎市長の福田紀彦でございます。本日はお招きをいただきまして誠にありがとうございます。

炉端の会が創立されてからちょうどこの9月で20周年ということで、この間の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げたいと思います。

皆様は、このたび川崎市文化賞を受賞されました。この賞は、川崎市が市民の方に贈る最も名誉ある賞といわれております。選考委員会により公平な審査が行われ、多くの候補の中から選ばれております。まさに 20 年間の活動が認められたということで、改めて心からお祝いを申し上げたいと思います。

先日、川崎市文化賞の授賞発表記者会見が行われた際に、記者の方から「どの団体や個人の方が印象に残っていますか」というような質問がありました。そこで最初に「炉端の会」の皆様の活動のことをお話しさせていただきました。皆様の活動は幅広く知られているところであり、直接お目にかかったことのない私のところまでずいぶんと話が届いておりました。この 20 年間継続して活動を続けてこられた意味というのは本当に大きいことで、文化賞に最もふさわしい方々ではないかというコメントをさせていただきました。これは私個人だけではなく、市民の皆様から見ても「本当にそうだ」と思っていただけの受賞ではないかと思っております。

私にとって、この生田緑地はまさに私が育った場所であります。小学校時代は、土曜日の授業が終わりますと毎週のように自転車でここに来て、プラネタリウムを見た



り、民家園を見たりして過ごしておりました。その時分に比べると、本当に民家園がパワーアップしていると思います。それは、建物の数が増えたということもあるかもしれませんが、やはり血の通ったというか、人の空気感があるというようなことであると感じるからだと思います。本日もわずかな時間ではありましたが園内を周らせていただき、皆様の心温まるガイドにふれ、草バツタをお土産に頂きました。それから囲炉裏で火を焚いていただいでいて、本当にあそこでずっと座っていたかったなと思いました。火の番をされていた方は、私が来るのに合わせてちょうどよい火加減に合わせるのが大変だったとおっしゃっていました。民家園には、国や県の重要文化財が多くありますが、こういった皆様の活動があるからこそ、文化財が本当の意味で豊かなものになっているのだと今日は改めて感じました。

先ほど野田会長がご挨拶された中で若干自画自賛だとおっしゃっていましたが、私は決してそうではないと思います。名簿を見ると 20 年選手の方が 13 名もおられ、15 年、10 年と活動を続けている方もたくさんいらっしゃる。川崎市の財産です、本当に。

3 年後の平成 29 年度は、日本民家園が開園 50 周年となりますし、10 年後の川崎市制 100 周年のときには「炉端の会」が 30 周年ということになります。そのときに 20 年選手あるいは 15 年選手の方々はもちろん、他の皆様もそれぞれプラス 10 年となっているかと思います。今後もぜひ頑張ってください、この川崎市の持つ素晴らしい財産をさらに豊かにしていただけることを心からお願い申し上げます。そしてまさにプラチナ世代というにふさわしい、輝いている皆様のお顔を拝見でき、本当に嬉しく、ありがたいことだと思っております。これからもこの民家園を守り育て、そしてさらに良いものにしていただくことを心からお願い申し上げまして一言お祝いとお礼の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございます。そしておめでとうございます。

以上

(当日のご挨拶からテープ起こし 編集委員 8 期 水曜 野田 監修：日本民家園)